

大日本國
大清國
修好條規

第十類	一冊	二十四架	十七函
-----	----	------	-----

国立公文書館

分類

排架番号

2
33-9
1083

1088

正記

大日本國

修好條規

大日本國

水國ト

大清國

古來友誼敦厚ナルヲ以テ今般一同

舊好ヲ修メ益邦交ヲ固クセント欲シ

大日本國

欽差全權大臣從二位大藏卿伊達

大清國

欽差全權大臣

辦理通商事務大子大保協辦大學士
兵部尚書直隸總督部堂一等肅毅伯 李

各奉シタル

上諭ノ旨ニ遵ヒ公會議ノ修好條規ヲ定メ以

テ雙方信守シ久遠替ラザル事ヲ期ス其議
定セシ各條左ノ如シ

第一條

此後

大日本國ト

大清國ハ彌和誼ヲ敦フシ天地ト共ニ窮マリ
無ルヘシ又兩國ニ屬シタル邦土モ各禮ヲ
以テ相待チ聊侵越スル事ナク永久安全ヲ
得セシムヘシ

第二條

兩國好シヲ通セシ上ハ必ス相關切ス若シ
他國ヨリ不公及ヒ輕藐スル事有ル時其知
ラビヲ為サバ何レモ互ニ相助ケ或ハ中ニ
入り程克ク取扱ヒ友誼ヲ敦クスヘシ

第三條

兩國ノ政事禁令各異ナレハ其政事ハ己國
自主ノ權ニ任スハシ彼此ニ於テ何レモ代
謀干預ノ禁シタル事ヲ取り行ハント請ヒ
願フ事ヲ得ス其禁令ハ互ニ相助ケ各其商
民ニ諭シ土人ヲ誘惑シ聊違犯アルヲ許サ

第四條

兩國來、權大臣ニ差出シ其眷屬隨員ノ召具
シテ京師ニ在留シ或ハ長ク居留シ或ハ時
々往來シ内地各處ヲ通行スル事ヲ得ベシ
其人費ハ何レモ自分ヨリ拂ハシ其地面
家宅ヲ賃借メ大臣等ノ公館ト為シ並ニ行
幸ノ往來及ヒ飛脚ヲ仕立書狀ヲ送ル等ノ
事ハ何レモ不都合ナキ様世話致スヘシ

第五條

兩國ノ官位何レモ定品アリトイヘドモ職
ヲ授ル事各同シカラス因テ彼此ノ職掌相
當スル者ハ應接及ヒ文通トモ均ク對待ノ
禮ヲ用ユ職卑キ者ト上官ト相見ルニハ客
禮ヲ行ヒ公務ヲ辦スルニ付テハ職掌相當
ノ官ハ照會ス其上官ハ轉申シ直達スル事
ヲ得人又双方禮式ノ出會ニハ各官位ノ名
附ヲ用ハル兩國ヨリ差出シタル官員初テ
任所ニ到着セハ印證アル書付ヲ出シ見セ
被肩ナキ様、防ヒヲナスヘシ

第六條

此後兩國往復スル公文大清ハ漢文ヲ用ヒ
大日本ハ日本文ヲ用ヒ漢譯文ヲ副ニシ或
只漢文ノミヲ用ヒ其便ニ從フ

第七條

兩國好ミヲ通セシ上ハ海岸ノ各港ニ於テ
彼此共ニ場所ヲ指定ノ商民ノ往來貿易ヲ
許スヘシ猶別ニ通商章程ヲ立テ兩國ノ商
民ニ永遠遵守ヒシムベシ

第八條

兩國ノ開港場ニハ彼此何レモ理事官ヲ差
置キ自國商民ノ取締ヲナスヘシ凡家財產
業公事訴訟ニ干係セシ事件ハ都テ其裁判
ニ歸シ何レモ自國ノ律例ヲ按シテ糾辦ス
ハ兩國商民相互ヲ訴訟ニハ何レモ願書
體ヲ用ヒ理事官ハ先ツ理解ヲ加ヘ成文ケ
訴訟及ハザル様ニスベシ其儀能ワザル
時ハ地方官ニ掛合ヒ双方出會シ公平ニ裁
斷スヘシ尤盜賊欠落等ノ事件ハ兩國ノ地
方官ヨリ召捕リ吟味取上ケ方致スノミニ

ノ官ヨリ償フ事ハナサバルバシ

第九條

兩國ノ開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置サル
トキハ其人民貿易何レモ地方官ヨリ取締
世話スヘシ若シ罪科ヲ犯サハ本人ヲ捕テ
吟味ヲ遂ケ其事情ヲ最寄開港場ノ理事官
ハ裁合ヒ律ヲ照シテ裁斷スベシ

第十條

兩國ノ官吏商人ハ諸開港場ニ於テ何レモ
其地ノ民人ヲ雇ヒ雜役手代等ニ用ユル事

勝手ニ為ヘシ尤其雇主ヨリ時々取締ヲ為
シ事ニ寄セ人ヲ欺ク事ナカラシメ別シテ
其私言ヲ偏聽メ事ヲ生セシムベカラス若
シ犯罪ノ者有ラハ其地方官ヨリ召捕リ糾
辦スルニ任セ雇主ヨリ旋フ事ヲ得ス

第十一條

兩國ノ商民諸開港場ニテ彼此往來スルニ
付テハ互ニ友愛スヘシ刀劍類ヲ攜帶スル
事ヲ得ス違フ者ハ罰ヲ行ヒ刀劍ハ官ニ取
上クベシ又何レモ其本分ヲ守リ永住暫居

ノ差別ナク必ス自國理事官ヲ支配ニ從フ
ハシ衣冠ヲ替ハ改メ其地ノ人別ニ入り官
途ニ就キ紛ハシキ儀有ル事ヲ許サズ

第十二條

此國ノ人民此國ノ法度ヲ犯ヒシ事有テ彼
國ノ役所商船會社等ノ内ニ隱ミ忍ヒ或ハ
彼國各處ニ遁ケ潛ミ居ル者ヲ此國ノ官
リ查明ノ掛合越サハ彼國ノ官ニテ早速召
捕シ一見遁ス事ヲ得ス囚人ヲ引送ル時ハ
途中衣食ヲ與ヘ凌虐スヘカラス

第十三條

兩國ノ人民若シ開港場ニ於テ兇徒ヲ語合
ヒ盜賊惡事ヲナシ或ハ内地ニ潛ミ入り火
ヲ付ケ人ヲ殺シ劫奪ヲナス者アラハ各港
ニテハ地方官ヨリ嚴ク捕ハ直ニ其次第ヲ
理事官ヘ知ラスヘシ若シ兇器ヲ用テ手向
ヒセハ何レニ於テモ格殺メ論ナカルベシ
併シ之ヲ殺セシ事情ハ理事官ト出會メ一
同ニ査驗スベシ若シ其事内地ニ發リテ理
事官自ラヲ赴キ査驗スル事届キカタル時

其地方官ヨリ實在ノ情由ヲ理事官ニ照
會ノ査照セシムヘシ尤縛ヲ取リタル罪人
ハ各港ニテハ地方官ト理事官ト會令々吟
味シ内地ニテハ地方官一手ニテ吟味シ其
事情ヲ理事官ニ照會メ査照セシムベシ若
シ此國ノ人民彼國ニ在テ一揆徒黨ヲ企テ
十人以上ノ數ニ及ヒ共ニ彼國人民ヲ誘結
通謀シ害ヲ地方ニ作スノ事有ラハ彼國ノ
官ヨリ早速査拏シ各港ニテハ理事官ニ掛
合ヒ會審シ内地ニテハ地方官ヨリ理事官

ニ照會シテ査照セシノ何レモ事ヲ犯ヒシ地
方ニ於テ法ヲ正スヘシ

第十四條

兩國ノ兵船開港場ニ往來スル事ハ自國ノ
商民ノ保護スル為メナレバ都テ未開港場
及ヒ内地ノ河湖支港へ乘入ル事ヲ許サス
違フ者ハ引留テ罰ヲ行フヘシ尤風ニ過ヒ
難ヲ避ルトメニ乘入リタル者ハ此例ニア
ラズ

第十五條

此後兩國若シ別國ト兵ヲ用ユル事有ルニ
付防禦イタスヘキ各港ニ於テ布告ヲナサ
ハ暫ク貿易並ニ船隻ノ出入ヲ差留メ誤テ
傷損ヲ受ケザラシムハシ亦平時ニ於テ大
日本人ハ大清ノ開港場及ヒ最寄ノ海上大
清人ハ大日本ノ開港場及ヒ最寄ノ海上ニ
テ何レモ不和ノ國ト互ニ爭鬭搶劫スル事
ヲ許サス

第十六條

兩國ノ理事官ハ何レモ貿易ヲ為スコトヲ得

ス亦條約ナキ國ノ理事官ヲ兼勤スルコトヲ
許サズ若シ事務ノ計ヒ方衆人ノ心ニ叶ハ
ザル實據有ラハ彼此何レモ書面ヲ以テ乘
權大臣ニ掛合ヒ查明メ引取ラシムハシ
人事ヲ破ルニ因テ兩國ノ友誼ヲ損傷スル
ニ至ラシメス

第十七條

兩國ノ船印ハ各定式アリ万一彼國ノ船此
國ノ船印ヲ假冒ノ私ニ不法ノコトヲ為サバ
其船并ニ荷物ヲモ取上クベシ若其船印官

頁ヨリ渡シタル者ナラハ其筋ニ申立官ヲ
罷メシムベシ亦兩國ノ書籍ハ彼此誦習ハ
ント願ハ、互ニ買賣スルコトヲ許スヘシ

第十八條

兩國議定セシ條規ハ何レモ預メ防範ヲ為
シ偶嫌隙ヲ生スルヲ免レシメ以テ講信修
好ノ道ヲ盡ス所ナリ是ニ因テ兩國

欽差全權大臣證據ノ為メ先ツ花押調印ヲナシ

置キ兩國

御筆ノ批准相濟ミ互ニ取替ハセシ後ニ即チ版

刻シテ各處ニ通行シ彼此ノ官民ニ普ク遵
守セシメ永ク以テ好ヲ為スヘシ

大正

明治四年^印辛未七月二十九日 花押

同治十年^印辛未七月二十九日 花押